

## 式辞（平成25年度）

平成25年度学位記授与式にあたり、お祝いの言葉を申し述べます。修了生および卒業生の皆さん、おめでとうございます。皆さんのご努力を見守ってきた者として、喜びにたえません。また、今日まで皆さんを物心両面にわたって支えてきてくださったご家族の方々に、心からの感謝を捧げたいと存じます。どうもありがとうございました。

今年卒業する大学生の多くは、その一年次の終わりに東日本大震災を経験し、以後、その影響や問題意識のなかで大学生活を送ることになりました。直接的に被害に遭われた方々はもとよりとして、そうでない人も、その後の政治情勢の混乱と激変を通じて、否応なく社会に目を向け、社会に生きるとはどういうことかを痛感しながらの学生生活だったと思います。これが貴重な体験であったことは疑いありませんが、もしこれを社会教育というのなら、まことに高い代償を支払ったこととなります。

さらに、現在の不況はいくらか好転のきざしが見えてきているとはいえ、一般市民がその恩恵に浴するにはまだほど遠いものがあります。考えてみればこの不況はもう20年以上続いております。ということは、本日卒業される皆さんの多くにとって、これまでの人生はもっぱら不況の中にあつたということになります。皆さんが立派に成長されて今日を迎えられたことについては、ご家族の並々ならぬご苦労があつたわけですが、しかしこれからは、皆さんは社会に出られて、社会の厳しさを自分の身一つで受け止めることとなります。

以前は、就職希望の卒業期学生に、なぜ就職したいかを聞くと、「社会を見学するためです」と答える人がいました。しかし、こんにちでは、そのように答える学生はいません。それは当然のことです。言うまでもなく、皆さんが社会に出るのは、社会を見学するためではありません。社会を支え、社会を動かすためです。その意欲と能力を持った卒業生を世に送り出すために、本学の教育はあるのです。社会を支え、社会を動かす決意を、今あらたにさせていただきたいと思えます。

さて、つい1か月ほど前にはロシアのソチで行われた冬季オリンピックに日本中の関心が集まっていました。どの選手も全力を尽くしましたが、期待されながら結果が思わしくなかったり、期待通りの結果を手にした、あるいは期待以上の活躍を見せたりなど、結果はまちまちでした。そのなかで、挫折を乗り越えて40代になってメダルを取つたある選手が、テレビのインタビューに答えて、「努力は裏切らないことがわかりました」と言っていたことが印象に残っています。その選手を心から祝福する一方で、私のようにいたずらに年齢を重ねてきた者からすれば、その言葉は誤解を招く恐れがあるのではないかと余計な心配をしたことも事実です。「それでは、メダルを取らなかった選手は、努力しなかったことになってしまいませんか」と私は心の中でその選手に話しかけていました。

「努力は裏切らないかどうか」と尋ねられれば、私は、「努力は裏切らない」と自信をもって答えます。しかしながら、それは努力した結果とは関係のないことです。挫折を重ねながらようやくオリンピックに出場して、しかもメダルに手が届かなかった選手が数多くいます。そればかりか、血の滲むような努力を重ねながらもついにオリンピックに出場できずに選手生活を終えた無数の人々がいます。私はむしろ、そういう選手および元選手に、「努力してよかったです。努力はちゃんと報われたと思っています」と言ってほしいと思えます。現在とはかく、彼ら、彼女らが、少なくとも、将来に思うような日が来ることを信じています。結果ではないのです。

努力しても少しも報われないという思いで生きている人もいるかもしれませんが、しかし、努力して努力して、努力しぬいてある年齢に達した人は、人生を振り返ったとき、努力してよかった、という強い感慨にとられるはずで、それが生きるということの意味なのです。努力は虚しい、などと思っている人があつたとすれば、その人は、結局、大して努力しなかった人なのです。

結果ではない、ということについてひとこと付け加えます。

例えば、ヒマラヤなどの、頂上に達するのが極めて困難な雪山に挑む場合、山頂を極めれば大きく報じられて英雄扱いされますが、一方で、山頂をすぐ目の前にして引き返してくる人もいます。その人は、先に進めば自分や同行者の命

を危険にさらすことになると考えて、将来に希望を託して、あえて引き返すことを決断したのです。そう決断するためには、言葉では言い表せない強い精神力がいることと思われます。この人が、努力が無駄になったと考えているはずはありません。前に進むとは、いつもしやにむに突き進むということではありません。立ち止まる、あるいは引き返す、という選択肢が皆さんの前に現れることがあるかもしれません。そのときには、本当の勇気をもって、将来のためにどうすべきかを判断していただきたいと思ひます。それもまた、前に進む、ということの意味合いに含まれているのです。

皆さん、そのときどきの状況のなかで、精一杯の努力をしてください。努力に方向性があり、その方向性に意義があると信じれば、あとはなにも考える必要はありません。そのとき、皆さんの前には、光り輝く一筋の道が見えているはずです。自信をもってその道を進んでいただきたいと思ひます。

この切なる願ひをこめ、皆さんの前途に幸多かれと祈って、私の式辞といたします。

平成26年3月15日

共立女子大学  
共立女子短期大学  
学長 入江和生